

# 小学校 第2学年 生活科 学習指導案

北海道札幌市立平岡南小学校  
教諭 内田 宏子

**単元名** あしたへ つなぐ 自分たんけん (20 時間)

**単元の  
ねらい**

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分の成長を支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかるとともに、これまでの自分の生活や成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって意欲的に生活できるようにする。

**本時の  
ねらい**

自分の成長を支えてくれた身近な人々の存在や自分との関わりについて気づき、感謝の気持ちを持ち、自分なりに表現し伝えることができるようにする。

**指導時期**

2月上旬～3月中旬

## 指導者用デジタル教材活用の意図・目的

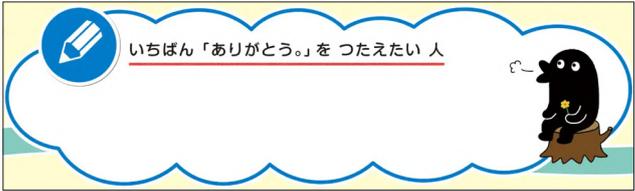
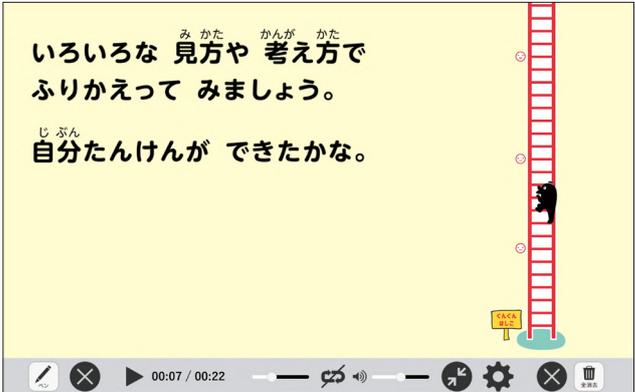
日常的にICTを活用することで児童の「考えたい」「やってみたい」の意欲が引き出されるなど、教材として効果的であることを実感している。体験活動や動く場面の多い生活科の学習の場合、従来の紙の教科書では、使用するのが難しいことも多かった。また、以前の学習と現在の学習をつなげる場面などで使いにくさを感じていた。

指導者用デジタル教材を活用することでさまざまな学びの形態を保障することができ、一人一人の思いや願いに沿った学びが充実するとともに、自分と友達の学びがつながっていることに気づき、手応えを感じることができると考える。

## 本時(第11、12時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> </ul>	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前時までに集めた自分のカードとデジタル教科書の紙面を比べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>T</b>：自分のカードと比べて、どんなことに気付いたかな。</li> <li>◎：○○が同じだ。</li> <li>◎：△△のところは違うよ。</li> <li>◎：こんなふうにやってみよう。</li> <li>◎：どうやってまとめようかな。</li> </ul> </li> <li>● いろいろな表現方法を知り、自分なりの表し方を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>T</b>：花さんみたいなまとめ方の他に、どんなやり方があるかな。</li> <li>◎：係活動みたいにポスターがいい。</li> <li>◎：絵本みたいにしたいな。</li> <li><b>T</b>：どうしてそう思ったのかな。</li> <li>◎：だって、絵本にすると自分もみんなも読みやすいと思うから。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ズーム、ペン、マーカーの活用  </li> <li>● 「学びのポケット」の活用  </li> </ul> <p>*教科書p.102の「自分たんけんカード」の画像を拡大掲示し、児童の思いに沿って画像を拡大したり、ペン・マーカーで囲ったりして、意欲的に比べることができるようにする。</p>
	展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 選んだ方法でまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>T</b>：自分が成長したことやカードを書いた人のかたちを考えたこと、まとめてみよう。</li> <li>◎：どのカードを使おうかな。</li> <li>◎：並べ方はどうしようかな。</li> <li>◎：こんなふうに思ってくれてうれしいな。</li> <li>◎：友達はどうやっているのかな。</li> <li><b>T</b>：友達と見せ合ったり質問し合ったりすると、自分のまとめ方に生かせるかもしれないね。</li> <li>◎：いろいろな並べ方があるんだな。</li> <li>◎：自分のことなのに気付いていないことがあったよ。</li> <li>◎：よいところを教えてもらったから、もっと工夫してみたい。</li> <li>◎：自分だけの○○ができたから、見せたいな。</li> <li><b>T</b>：見てくれた人に、どんな気持ちを伝えたいかな。</li> <li>◎：うれしい気持ち。ありがとうの気持ち。</li> <li><b>T</b>：その気持ちを誰に伝えたいか考えてみよう。</li> </ul> </li> </ul>

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● いちばん「ありがとう。」を伝えたい人を考え、絵や文でかき表す。</li> <li>◎：成長できてうれしいな。</li> <li>◎：いろいろな人に助けてもらったんだな。</li> <li>◎：お家の人からのメッセージが一番うれしかったよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ズーム、付箋、スタンプの活用</li> </ul>  <p>*教科書 p.103 の友達に伝えている場面を拡大掲示しておくことで、気付いたことや気持ちの伝え方の手がかりとなるようにする。</p>  <p>*自分の気持ちや伝えたい相手を、友達と確認し合うことで、身近な人々との関わりを再認識し、感謝の気持ちももてるようにする。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■：「自分たんけん」を続けてきたことで、どんな自分が見つかったかな。「はっけんロード」をたどりながら考えてみよう。</li> <li>◎：〇〇ができるようになった。</li> <li>◎：小さいときと今の違いをお家の人に教えてもらった。</li> <li>◎：自分では気付かなかったことを友達が書いてくれた。</li> <li>◎：「自分たんけん」の道が全部つながっているよ。</li> <li>■：成長した自分を見つけることができたね。最後に、「ぐんぐんはしご」を登ってみよう。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ぐんぐんはしご」に記入する。</li> <li>◎：まとめるときにたくさん考えたから、真ん中より上まで登れそう。</li> <li>◎：自分のことがすごくわかったから一番上まで登ろう。</li> <li>■：3年生になるのが楽しみだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表示/まきものの活用</li> </ul>  <p>* ツールバーの「表示」にある「まきもの」を活用して、単元(はっけんロード)を振り返ることで学びが繋がっていることが実感できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ぐんぐんはしご」動画の活用</li> </ul>  <p>* 「ぐんぐんはしご」の動画を見ながら自分の「満足度」を指し示すことで、学びの手応えを感じ、3年生に向けての意欲と期待につながるようにする。</p>

## 指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

### 〈指導者側が得られる効果／メリット〉

児童の思いや願いに沿って自由に書き込むことができるため、児童とともに教科書を変化させながら、一人一人に合った学びを保障することができる。また、操作が容易で適宜拡大掲示できるよさがあり、従来の紙の教科書よりも視覚的な支援がしやすい。

思考ツールを考えさせたい内容によって選択し活用することで、「考えたい」を生み出すきっかけとなる。また、スタンプやペンなどを使ってその場で児童の気づきを価値付けることができ、そこで生まれた手応えが、次への意欲につながる。

本単元では、「今の自分を表現する」活動と「友達と伝え合い互いに認め合う」活動が変化しながら繰り返し行われている。単元を通してさまざまなツールを効果的に活用することで、自分と友達の思いや考えを整理したり、違いやつながりに気付いたりすることができ、体験と実感を伴った学びになると考える。

### 〈学習者側に与える効果／メリット〉

教科書紙面がアップになったりペンで囲まれたりすることで「〇〇したい」が生まれ、「自分だけの学び」になる。また、視覚的な手がかりが増えるため、どの子にとってもわかりやすくなり、「やってみたい、伝えたい」などの意欲が高まる。

思考ツールとワークシートを児童が選択できるようにするなど個に応じた学びを保障することで、自分の考えを表現しやすくなり、問いや学びが自分事となる。また、自分と友達の学びがつながることで気づきの質が高まり、学びが深まる。

本時のまとめで活用した「まきもの」表示や「ぐんぐんはしご」の動画は、単元を通しての学びを視覚的に振り返ることができ、次への意欲や期待につながると考える。

指導者用デジタル教材は、児童の思いや願いに沿った学びを保障するとともに、自分と友達の考えを比べたりつなげたりするための手立てとして効果的である。他の教材と併せて活用することで、「自分でできた、もっと〇〇したい」などの手応えを感じ、学びを実感して生活に生かしていくことができると考える。